

第 29 回「親心を育む会」会議記録

日 時 : 平成 22 年 4 月 20 日 (火) 14:04~16:20
場 所 : なでしこ保育園 子育て支援センター「パーシモン」
出席数 : 24 名

1. 園部代表挨拶

皆さんこんにちは。新年度お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今日は、大修館書店の大塚さんから、書籍の進捗状況の説明と、前回に引き続き、「新人保育士さんのお悩み相談」についてです。本日もよろしく願いたします。

2. 松居先生より

こんにちは。みなさんのお手元に埼玉県から届いていますか？「保育参加の事例集」。この冊子のトップに行田保育園の事例がカラーで載っています(笑)。暗に「保育参加」は「一日保育士体験」で、ってプッシュしている感じがいいですね。各園の取り組みもたくさん載っているのですが、最後の方に、行田保育園の高圧的な！？(笑)、「ここまで保護者に言っていないんだあ〜」って感じのお知らせや証明書なども載っています。これが、埼玉県内の全ての幼稚園・保育園に県から配られる事になっています。実際に「一日保育士体験」が県内で動いている感じがして、いいなと思いました。

昨日、保護司の任命会があったのです。保護司ってご存知ですか？保護観察中の人とか、執行猶予中の人とかが月に 2 回、保護司の方に報告するようになっているのです。保護司の主な仕事は、そういった罪を犯してしまった人たちの相談に乗る事なのですが、昔と違って、罪を犯した人の事情とか、問題が複雑化し過ぎて、簡単に相談に乗れないという話になってきました。そこから、保護司さん達と 2 時間ばかり話をしたのです。私が「原因は家庭崩壊と親ですよね」と言ったら、全くその通りだという話になりました。私は、今まで保育園が家庭崩壊の影響を受ける最前線だと思って話をしていたのですが、保護司はその最前線のもっと先にいる方たちなのだなと感じました。

実は保護司ってボランティアなんですね。報酬はありません。ただボランティアだからこそ、相手と真剣に向かい合えるのかもしれない。私と主に話していたのは 70 歳くらいのご婦人だったのですが、現在 20 人位、刑期を終えて社会に出ようとする人とかかわっていらっしやるそうです。その方は臨床心理士だったそうですが、臨床心理では到底立ち向かえない、保護司は素人だけでも、素人だからこそ親身になれるとおっしゃっていました。刑期を終えられ

た人は、この親身さに飢えている。社会のシステムや仕組みでは彼らの飢えは満たせない。そこを耕し直すには、親身さや人との絆が必要です。この事を考えると、今の社会状況はちょっと絶望的ですね、といった話でした。その方達に「一日保育士体験」の話をしたら、保育園や幼稚園から親子関係を耕し直して、10年後20年後に結果が出るのでしょうか、と話していました。

千葉県のある地方では待機児童どころか、子どもの数がどんどん減って、幼稚園や保育所を統合して、それこそ幼保一体化にしなければ施設が保てないようなところも出てきています。そういったところが日本全国にあって、地域地域によって保育を囲む問題点は全く違うのです。しかし、子どもの幸せを考えたら、今親を何とかしなくては、という事は共通しています。私が講演のたびに、「親心を育む会」のホームページの案内をして、「一日保育士体験」のマニュアルをダウンロードしてくださいと言えば、その地域で少しずつでも「一日保育士体験」の話が進んでいくので、ありがたいなと思っています。

以上です。

3. (株)大修館書店 大塚氏より

皆様、こんにちは。昨年12月に、皆様に原稿をいただいてから連絡もせずに失礼いたしました。今、いただいた原稿をもとに事務局の先生方と相談しつつ、まとめているところです。今年の6月を目途に一つの区切りをつけたいと考えています。みなさんには7月か8月位に、原稿が本になるであろう、というところまで近づいたら、コピーをお配りして読んで頂きたいと思っています。書籍の作業としては、進行していますので御心配なさらないようにという事で。

以上です。

4. 新人さんのお悩み相談 Part2～「甘え」と「けじめ」その境目って？

園部代表；それでは、前回のお悩み一覧から、アンケートをとって、その結果、要望の多かったものから順に進めていきたいと思えます。一番多かったのは「子どもに対して受け止める部分と頑張らせる部分を自分なりに判断して接しているつもりだが、あっているか不安になる」でしたが、その事について、具体的にどういった事で困っているのか、今日来ていただいている先生方の中でお話していただければと思えます。

K保育園 M先生；保育士になって4年です。私の場合、良くある出来事で、困ったな、と思うときは整列の時です。あるとき、整列をはじめたのですが、後から来た1人の女の子が列に割り込んで、「ここがいい」といって聞か

かったのです。もちろん後から来たので周りのお友達からは「だめだよ！後から来たんだから後ろに並びなよ！」っていわれて。私からも「こっちで並ぼうね」と声をかけたのですが…。じつはその子、普段とてもしっかりした子だったので、話せばわかると思ったのです。でもその日はすごく泣きだして、気持ちを引きずってしまい、切り替えることができませんでした。その時に、子どもの気持ちを受け止めてあげられれば良かったのかもしれませんが、もう少し、頑張っただけで欲しい、頑張れる子だとも思ったりもしました。自分の判断が良かったのかどうか…。

G 保育園 S先生；保育士として3年目です。私が保育している子どもの中に、母親とのかかわりが密にとれていなくて、精神的に不安定なお子さんがいました。保育活動の中でも、さびしさゆえに消極的になってしまうことが多くて…。でも徐々にお母さんと連携が取れるようになって、お子さんの様子も変わってくるようになった時、その子の甘えたい気持ちから「やりたくない」と言い出すようになりました。けれども、担当としてそこから一步を踏み出して、頑張っただけで欲しい！という気持ちがあったので、その子と一緒に活動したり、励ましたりしてきました。子どもの背景にある、その子の気持ちをくんで適切に対応するというのが大事だとは分かっているのですが、どこまでどうしていいのか分からないのが悩みです。

T 保育園 U先生；保育士2年目です。今4歳児を担当しているのですが、暴力的というか、集団の輪に入れないう子がクラスに2~3人いるのです。私としては、紙芝居を読んでいる時など、その子たちにも輪に入って欲しいと思っているのですが、どうしてもその輪を乱してしまう子がいて…。さっきの先生もおっしゃっていましたが、列を作る時も順番を決めているのですが「ここじゃなきゃイヤ！」という子もいます。順番は守って欲しいと思うので、その子を説得するのですが、「イヤ」。そこは「我慢」ではなくて、「守らなければならない」ところだと思うのです。そこでその子だけに話をしていると、保育が進まない時があります。「イヤ」な事があっても我慢して皆で集団行動をして、輪を乱さないように頑張っただけで欲しいな、と頭を悩ましています。私の声掛けが足りないのか、と不安になる面もあります。良いアドバイスがあればお願いします。

園部代表；それでは、先輩の先生方、いかがでしょうか？新人さん達に何かアドバイスをお願いします。

事務局 保泉；自分の園で例を出すと、小さい子は特にですが、若い職員の言う事は聞かないのに、私が出てきただけでピッと背筋が伸びる子は多いですね(笑)。年の功、じゃないのかな？と思うのですが(笑)。ですから、なるべく私が園内をふらふらして、私の姿だけで子ども達をけん制したり(笑)。他

の園でもフリーの先生や主任の先生にサポートしてもらうのもいいかもしれませんがね。今の子は駄々をこねたもの勝ち、みたいなのがあつて。保育園は集団ですから、うちの園では、集団の中でダメなものはダメ、ときちんと言葉かけをし、指導しています。

松居先生；そのけじめって何歳くらいから？

事務局 保泉；どんなに小さい子でも、ちゃんと話せばわかりますよ。

松居先生；いや、自分の子が今 2 歳じゃないですか。自分のやりたい事が出来ない、もう悲しみのどん底って感じになるんですよ。私のように、この年齢になると、そんな子どもの姿を見るとついつい子どもの言う事を聞いてしまうんです(笑)。親というより祖父母の気持ちになっちゃうんですよ。

若い保育士さんの、「オロオロ」もすべて子どもにとって必要なんだと思います。幼児を育てているお母さんの「オロオロ」も。これが大事なんだと、そのオロオロした表情も子どもにとって必要なんだと思います。我儘に対処する事も大事だけれども、オロオロしてもらえた子どもは、良い感じに成長しますよ。自分のためにお母さんや先生がオロオロしてくれている。それを子どもの「甘え」だと言ってしまえばそうかもしれませんが、人生 3 割くらいその甘さで出来ているのですから、目一杯先生方は「オロオロ」してください(笑)。

事務局 保泉；そうですね。新人の先生方がドンと構えていると、先輩達の立場がないです(笑)。

園部代表；とはいうものの、家族の役割と、集団保育の役割は違いますから。保育をする、クラスをまとめるのは、経験年数に関係なく、現場にいる先生たちなので、その部分はどうしていけばいいと思いますか？

T 保育園 M 先生；お話を聞いていて、若い先生たちは「自分たちのやっている事は正しいのかどうか？」ということを確認したいのでしょうか？確かに、新人の先生とベテランでは、経験の差と醸し出す雰囲気の違いはありますから(笑)。それはそれでしょうがないのかな？って思います。私が若い先生と組んだときに、「自分も先生と同じようにやっているのに、子どもが聞いてくれない」と言われた事があります。複数担任で組んだときには、そのクラスの中で、「ダメなものはダメ」と話し合っ決めておいた方がいいと思います。子どもは子どもなりに先生を見ているので、あの先生はこれをやると怒るけど、この先生は大丈夫、みたいな違いがあると、若い先生はもっと迷うのだと思いますから。「守るライン」をクラスでちゃんと決めておく事は重要です。

S先生；自分が子ども達に何度言ってもダメなときに、「本当にこれでいいんだろうか？」とあっているかどうか気になるのです。

M先生；そんな時は、一緒に組んでいる先輩の先生でも、一人担任であれば他のベテランの先生に意見を聞いて、その園の保育の筋道を確認した方がいいと思います。私が担当だった時は、そんな時、子どもたちを集めて話を聞きます。まず子どもなりの反論や意見を聞いて。そのうえで、「先生たちがみんなにお話したことが分かるかな？保育園は皆で生活していくところです。やりたくてもやっちはいけないことがあるし、やりたくないけれど、やらなくてはいけないこともあるよ。」と我慢をしなくてはならない場面もあるという事を丁寧に話します。

S先生；その子は「がまん」ができないんですね。ここはがまんをしなきゃいけないところだとわかっているけど、がまんができない。そういう子にはどう対応してあげればいいのか…。

松居先生；色々な子どもがいますよ。

M先生；私は、そういう子は自分のそばに連れてきちゃいますけれど。言葉で動かそうとするだけではなくて、自分の近くにおいて、その子と一緒に活動するでしょうね。

松居先生；う～ん。今の話を聞いていたら「いやいやえん」（中川李枝子作 福音館）の「しげる」を思い出しました。皆さん知ってます？「いやいやえん」。しげるはまさに「わかっているけれどもできない」子なんですよね～。

事務局 高木；「がまん」が出来ないからと言って、その子を否定しているわけではないですよ？（「そうじゃないです」）それなら、根気よくその子と向き合っていけば、そのうち相手に分かってもらえる日も来るんじゃないかと思うのですが…。

U先生；私も同じような事を園長先生に相談したら、「感情で怒るだけではなく、たくさん子どもを褒めなさい」って言われました。けれど褒める努力はしているのですが、やっぱり保育をしている中で、カッと来たりする事もあって…。

松居先生；私、いろんな保育園や幼稚園に講演に行くじゃないですか。それぞれの園に入った瞬間に、空気が違うのがわかります。平和な園とそうじゃない園と。あ、平和じゃないから悪いというのではありません。保育士の葛藤

と園長先生の葛藤の組み合わせによって起こる結果ですからね。良く講演で話しますけれども、みんながパキパキ元気いっぱいの保育士ばかりじゃ、園児が疲れちゃいますよ(笑)。中にくら～い保育士がいると、子どもがホッとしたりします。そのくら～い保育士に存在感があると、その園は平和だったりしますし。保育士も人間ですから、どの子に対しても全く同じ対応はできないですよ。ある担任が、ある子にとってはとっても良くて、違う子にとっては良くないってこともあります。保育士がそれぞれの感性で保育をしていけばいいんじゃないかと私は思います。

G 保育園 K先生；私が1年目の時、一人担任でした。確かに、いろいろ迷う事もありましたが、まず自分なりに判断し、園長先生に相談し、対応の仕方を考えていきました。そういった事を繰り返していくうちに、だんだんと、子どもの気持ちを聞いて、その気持ちを1回受け止めてあげることができるようになりました。どうしてその子がそんな事をするのかという理由を聞いてあげて、「じゃあ、次からはこうしてみたら？」というのを子どもに提案していくようになったのです。子どもの気持ちを受け止めたうえで、集団生活にあるルールを理解できるように話してあげたうえで、じゃあ次は、という子ども自身の気持ちを育てるようにしてあげるのはどうでしょうか。子どもが自分にもできるという事を体験できるように。

N 保育園 K先生；子どもが輪を乱す、って「乱している」と思っているのは私たち保育士だけなのかな、って思っています。子どもはそう思っていないかもしれませんよね。こういう風になると、こういう風になっちゃうんだ、と子どもが理解できると早めに手当てができるかなと。

例えば、紙芝居を読むとき、必ず前に来たがる子がいたとします。そんな時は、まず紙芝居を読む前に、その子に「どうする？」って聞いてみます。もし、いつも前に来ているから、たまには我慢してみようという事になって、我慢が出来たとしたら、「えらかったね」「先生が嬉しい！」って思いっきり褒めます。園生活の中で、その子に心地よい経験を積んでもらうことが大事だと思っています。3歳でも5歳でも、人に認めてもらって、クリアしている子は我慢が出来るのです。まずはその子を認めてあげる事。そして小さなステップをクリアしていく体験をたくさん経験させてあげることが必要だと考えています。

これは、クラスを見ている担任だけでは、難しい事だと思います。ですからなでしこ保育園では、そういったお子さんがいると、主任から何から総動員です(笑)。私も主任として新学期にはウキウキしているんです。今度はどんな子と1対1で向き合えるのかなって(笑)。

N保育園 T先生；「受け止める」「我慢させる」その部分は、私も毎年悩んでいます。子どもは毎年変わっていきますし、毎年悩むものなのかもしれません。「どうしてその子はそうするのか?」、その子なりの理由を把握してあげて受け止めることを心がけています。いつも子どもの気持ちを受け止めているうちに、子どもも「先生が自分の気持ちを分かってくれる」「自分の事を受け止めてくれる」と担任との信頼関係が芽生えてきます。信頼関係ができると、「先生の言う事も聞こうかな」って。その子との関係を作っていくことがまず大事なのかな、と思います。

頑張らせる部分、これはとても難しい事だと思います。集団生活がそつなく出来ればいいのかという問題もあると思います。確かに保育園は集団生活の場ですから、集団のルールは必要なのですが、その子1人1人が心地よく保育園で過ごせる事も大事だとも思うのです。その子と担任との関係の中で、何を受け止めて、何を頑張ってもらうのか見極めていくしかないのではないのでしょうか。担任がその子の成長を喜び、褒めて、受け止める。受け止めてくれる先生にほめられると相乗効果もあると思います。

本当に、この事については、経験年数に関係なく悩みます。それでも、毎年、毎年自分の見ている子どもと向き合って、周りの先生たちとも子どもの事を話していくことが、自分もそして他の先生の成長にもつながっているのかな、と考えています。

D保育園 W先生；その通り(笑)って思いながら、皆さんの話を聞いていました。若い先生が悩みながら保育をするのは、いいことだなあって思って。悩みがあることが大事。悩みがあれば、先に進む気持ちにもなりますから。まずは、子どもの事を知る事。目の前にある今の子どもだけじゃなくて、背後にあるその子の家庭の事情や育ち。若い先生たちは存分に子ども達に振り回されていいのだと思います(笑)。色んな目で子どもを見てあげるのが大切だと私は思います。一人の目より、たくさん目。一人の手より、たくさん手。皆で保育するんだ、という気持ちで。私は、周りのみんなに助けられながら保育をしていいんだって。上手な保育をしようとせずに、勇気を持って、子ども達と一緒に頑張るって欲しいなと思います。お利口に保育をまとめて形を作っていくと、この先が怖いですよ(笑)。どんなアピールの仕方でも、子どもが先生にサインを出せるようなクラスをつくっていく。そのためにも、まず子ども自身を知ることが大事だと思います。

松居先生；ちょっと、いいですか？新しい教育委員に原田先生が入られたのです。大阪の学校の先生で、元体育教師。超困難校をたち直させる名手だったのですが、ここでいまやっている議論が、その人が中学校を立て直す方法と似ているのです。ま、もちろん、中学生よりはるかにソフトですけどね(笑)。

今みたいな会話が、中学校の職員室で話されているといいなと思いました。今まで聞いていて、この話は 5 歳までの事を話しているんじゃないな、と感じたのです。原田先生は、遅刻常習者の生徒の家に泊まり込んで、朝起こしたり、朝食を一緒に食べたりして、なんとかその子の遅刻を直そうと思ったのだそうです。しかし、卒業まで直らなかった。けれども、卒業式にその生徒が泣きながら「先生と朝ドーナツを食べるのがうれしかったから、遅刻を直さなかった」と言ったのだそうです。

大人が真剣に向き合えば、子どもは大丈夫。幼児期に、大人に真剣に向き合ってもらえる体験をさせてあげるのが大事なのです。

事務局 大谷；皆さんが言ってくれた事が、全てだと思います。真剣に向き合うパワーって、若い先生たちに期待したいところなのです。体を使ってもらって、経験や知識を補えるところは体力だと思います。抱っこ・おんぶ・肩車。そうやって一生懸命保育をしているうちに、いろいろなものがついてくるのだと思います。

A 保育園 O 先生；本当に、本当に、頷いて聞いていました。私の園の話ですが、2 カ月に 1 回、保育士に子ども達の姿を順番に話してもらってました。けれども、何回も続けるうちに、「子どもの姿」がだんだんつまらなくなってきてしまったので、今年度は心に残った「エピソード」を中心に話してもらうようにしました。こんなところで、子どもと信頼関係をつないできた、という話をしてもらうようにしました。

私自身、小さな園ですから、職員が一人でも休むと、園長自ら保育に入ります。この前も 2 歳児を公園に連れて行って、滑り台を滑り降りてきた子どもを抱きあげたりしていました。すると今も、足ががくがくしてしまって(笑)。そんな時まさに、新人の保育士さんが目の前で子どもの対応で悩んでいたのです。保育園に帰ってから、「先生、今日のああいう言いかたはよかったんじゃない？」って声をかけました。園長にほめられると 20 代の若い職員は喜びますし、自信にもなると思います。大いに保育士として悩んで、そして成長していくことが出来るのだと思っています。

私の園は、0~5 歳児の一貫保育をしたいと考えています。その取り組みをはじめて 3 年目ですが、ようやく何かがわかりかけてきた気がします。私達の仕事は、子ども達が小学校に上がればお終い、というものではなく、子ども達が 20 歳になった時にいい人生であれば良いな、と思っています。私だって 20 歳のときには、そんな事は思いもしませんでしたけど(笑)。大いに悩んで、悲しい思いをしたり、泣いたりしても結果オーライだと思います。なんにも悩まず、何もしない人生よりずっといいと思いますよ。

A 保育園 I 先生；皆さんの言うとおりでな～って思って聞いていました。私は、今年 5 歳児の担任をしています。3 年目の保育士と一緒に担当をしているのですが、そのクラスに気になる子がいます。前年度の事も 4 歳児当時のにも伝えて、周りの大人みんなでその子への理解を深めていくようにしています。今の自分も、悩んだり迷ったりすることはたくさんあります。経験があっても、悩む事はあるのですから、若い先生方がクラスをまとめようとするならば、自分の体を一杯使って、存分に子ども達と一緒に遊んであげればいいのではないのでしょうか？

K 保育園 N 先生；私は「子どもから学ぶ」という事が大切かな、と考えています。なんでその子は困っているのか？隠れている子どもの気持ちなどを考えるのは大事なことです。

あるとき、泣きやまなくて、どうしても次の活動へスムーズに動けない子がいたので、担当が「落ち着いたら来てね」と声をかけました。その子はホールで一人泣いていたのですが、他の先生たちが声をかけると、さらに泣くと言った感じで。しばらくしてから、私がその子に「落ち着いた？先生と一緒に部屋に戻ろうか？」と手を差し出すと、その子も手を出してきたので、一緒にお部屋に行ってみました。すると、他の子が「もどってきたよ～」と皆に報告してくれたのです。

その時の担当保育士の表情を見て、「ああ、先生はこの子自身の力で部屋に戻ってきてほしかったのだろうか、もうちょっとこの子に頑張ってもらいたいのだろうか」と思ったのです。一人で担任を持って、クラスをいい方向にまとめたいと思っている先生を、つらい気持ちにさせたかもしれない。その子にもつらい気持ちにさせたかな。そんな担当の先生を目で追っていたのです。たまたまその子は、下の子が入園したばかりでした。事あるごとに、お母さんは下の子を優先にしている状態だったので、そういった家庭の事情からその子は反抗的になっていたのかもしれませんが。自分だって駄々をこねたい。そんな気持ちの表れだったのかもしれませんが。こういった事は、その子その子の状況にもよると思うのです。その時のケースはそう感じました。保育のポイントをどこに置くのか。「次の活動」にうつる事を保育士が重視するなら、まず子どもの気持ちを受け止めて、出来た事を褒めてあげて、次に気持ち良く進めるようにする事も大切ではないのかな、と思います。

私達はプロの保育士なのだから、子どもたちと対等になってしまって、自分の気持ちを押し付けるのではなく、子どもの気持ちになって、時には先生が折れることがあってもいいじゃないか、など。体を使って子ども達と一緒に遊んでいると、子ども達の方から態度が変わってくると思います。私の事

を分かってくれる、僕の事を分かってくれる、そう子ども達が思ってくれた時、子どもたちの態度が変わるのです。それが保育の醍醐味だと私は思っています。

M保育園 N先生；子ども達が、「担任の先生が一番好き」と一日でも早く言ってくれるように心を向けることが大事だと思います。そのチャンスを見逃さないように。子ども達は様々。赤ちゃんでも、おんぶで育った赤ちゃんは、おんぶが好きだろうし、おんぶでは泣きやまない赤ちゃんもいます。抱っこしても、おんぶしても泣きやまない。試しにちょっと置いてみたら、おもちゃに興味を持って一人遊びをはじめるとな子もいました。担当と目があって、声をかければ満足する子、声だけでなく、実際にかまってもらって満足する子。その子その子が、何が好きか、どんなふれあいが好きか、早く見つけてあげることが保育士の仕事かな、と思っています。その子がそんなふれあいが好きかを、担当全員が早く見極める。

あるとき、年少さんで保育の活動に参加しない子がいました。入所して3カ月目には泣きながらも参加できるように。ある日その子が自分で突然やろう！と思った時に出来るようになるのです。そのきっかけは子どもによって全く違う。何かにこだわって出来ないのか？でも、こだわりは大切だと思います。こだわらない子どもは逆に心配です。こだわりの強い子は優しい子が多いように思います。

保育で一つの活動を全ての子どもにさせようとするのなら、子どもが何に興味を持っているのかをつかんで、機会を待って、出来たときにほめる。子ども達が「やりたい！」という気持ちを全員に起こさせるのは本当に大変なことなのです。

N保育園 T先生；私が感じた事は、「受け止める事」と「頑張らせる事」は関係があると思います。こどもの「わがまま」と「甘え」を見極める力が必要でしょう。集団生活には、子どもにとって葛藤がありますから。その子の年齢や発達度合、生活歴、今日の体調、今朝の母親との関係、そういった事を手掛かりにその子の様子を見極める。それでいいのではないかと思います。

新人の保育士さんが悩んでしまうという所には、いろんな理由があると思います。「先輩の言う事は聞くのに、私の言う事は聞かない」というプレッシャーから、子どもに対してムキになって、引けなくなってしまう若い先生をたまにうちの園でも見かける事があります。自分のいらぬ自尊心が捨てられないのかな？子どもに感情をぶつけてしまう。1回自分の感情の勢いに任せると、引くに引けなくなってしまうから、そのあと疲弊して、また疲弊しているところに感情が爆発して、堂々巡りになってしまっている

ように思います。そうならないようにどうしたらいいのか。私は、自分自身が感情的にならないように心掛けるようにしています。

松居先生；うーん。「甘え」と「わがまま」って見極めづらくないですか？自分の2歳の息子を相手にしていて、こちらの気持ちの持ちようで、「甘え」になったり、「わがまま」になったり…。定義が難しいような気がします。こちらの気持ち次第で仕分けしているだけなんですけどね。子どもの行為自体は同じですから。なるべくだったらこちらがイライラしなければ、いいのかな、という気もしますが…。

T先生；保育士が自分の気持ち次第で…。

松居先生；子どもの行動を「仕分け」しようとしてしまうんですね？

T先生；けれども、「ダメ」なときは「ダメ」といわなければならない場合もありますから…。

松居先生；私だって、子どもにカッと来て「こつん」「がつん」をたまにやってしまう時もありますよ(笑)。本当に危ない時は、自分がカッとしているのがわかりますが、これが子どもに対してキレているのかどうか、自分で分からない時ですね。

事務局 高木；我が子であれば、そういった事もありかな？と思いますが。保育士としては、他人の子どもを預かるプロとして、カッとなるのはまずいと思いますけれど。そこが親と保育士の違いだと。ええと、では、先輩の先生方に「カッとした時の対処法」を教えていただければ、と思います。

O先生；あるとき、2歳4カ月の園児さんが、着替えるのが遅かったという理由で、保育室の外に出されました。その園児さんは一人で階段の踊り場で遊びだして、階段からおちてしまったんです。幸い、大きなけがには至りませんでした。本当に目の間が真っ暗になるような気持ちになりました。担当の保育士が、その子に着替えが遅いから、外に出なさいと叱っている時に、「先生、そんな叱り方をしたら良くないよ」という保育士がその場にいなかった、という事も私にとってはショックでした。複数担当なのですが、チームワークがバラバラになってしまっていたのです。その子が階段から落ちた事によって、叱った保育士自身も立ち直れないですし、役所にも始末書を提出してきました。保育士自身が保育に対して責任を持ってほしいと思いました。カッとなる事がどれだけ事故につながるのか。そこを理解してほしいと思いましたし、なぜカッとなってしまうのだろう？と不思議に思ったのです。1, 2歳児は何をやってもかわいい時期なのに、カッとなる理由は何なのだろう。

それは、子ども達が自分の思うどおりになってくれないからじゃないのかなと考えました。

松居先生；私が、一番保育士がカッとしているのを見たのは、60歳くらいのパートのおばちゃん。保育士資格を持っていなくて、カッとすると保育している子どもを叩くんですよ。見かねた園長が注意すると、「保育というのは自分の子を育てたときのようにすればいいのだと思っていました」って。保育をしている人が、それぞれに自分の子育ての基準を持っていて、その基準に従って保育をしてしまう。そういう場面を、講演しに行った保育園で見してしまう事があります。やっている本人に悪気はないのです。他人の子を預かるという事は、自分の子を育てる事とは違うということが資格を持っていないとわかっていない場合がある。もし、それが親の行動であれば、50年後、60年後にそれを体罰と見るか、愛の鞭と見るか、これはその子の成長を見てみないと分からないかもしれません。

T先生；カッとして子どもを保育室から出してしまうのは、「しつけ」ではないですよ。

松居先生；その見極めが難しい。

N先生；見極めが難しいと言え、お母さんたちもそうですよね。子どもが「お腹が痛い」と言っただけで休ませてしまう。本当は保育園に行かせたいのだけれど、本人が「お腹がいたい」っていつているから…とずるずる休みが長引いたりします。お母さんも、葛藤で悩んでいたたりして…。

事務局 高木；それは、子どもが休みたいから「痛い」と言っているのか、本当に「痛い」のか、お母さんに見分けがつかなくなっているってことですよ？子どもの事や状態がよく分からないお母さんって、増えてきた気がしますね。

5. 新人さんの感想

園部代表；では、今までの話を聞いて、感想をお願いします。

M先生；参考になりました。保育は1日時間で決まっているので、その場で子どもの気持ちを聞いてあげようと思っても、次はこれ、次はこれとやるべき事がたくさんあって、その子だけに関わるわけに行かなくて…。でも、園全体で、子どもに対してプラスの言葉がけを心がけているので、子どもが失敗しても、声掛けをしているとその子の表情が変わる場面を感じ取れる事もあります。自分との葛藤をしながら保育をしていきたいと思いました。あ

りがとうございました。

U先生；貴重なご意見、ありがとうございました。子どもを認めつつ、自分の中にも余裕を持ちたいと思いました。ここまで出来れば、いいか、と思ったり、自分に余裕があれば、子ども達のいいところを見つけてあげられたりするのかも。今その余裕がないのが影響しているのかな、って。妥協とは違うけれど、子ども達の事を認めてあげて、子ども達の事を知ってあげればいいのかと思います。

S先生；どうしても集団を動かしていこうとすると、1対1の時間が取れなかったな、と。今持っているのは5歳児だから、子ども自身が考える時間を作って、子ども達自身で動けるようにしてみようかな、と思いました。子どもが何かをしても、こういう気持ちで、こういう事をしてしまったんだと理解してあげることが大事なのだと分かりました。子どもに理由をしっかりと聞いて、じゃあその次にどうすればいいのかという目標を持ってもらって、次につなげる。今日、園に帰ったら、早速子どもたちみんなと体を使って遊びこみたいと思います。

6. 森田議員・原田先生よりコメント

園部代表；では、森田さんよりコメントいただきたいと思います。

埼玉県議会議員 森田氏；「カッとなる」というお話でしたが、私たち家族に当てはめると、私の方が沸点は高く、なかなかカッとならないのですが、母親の方がキレやすいかな？(笑)と。だから、子どもをしかる時は役割分担ができています。大体は、私が母親にがみがみ叱られた後の受け止め役で。いい役とりやがったなって、妻は思っているかもしれません(笑)。

自分の育ちを振り返ってみても、両親が共働きで、祖母に預けられていました。祖母に怒られた時、蔵に閉じ込められた事もありましたよ。あれは、祖母がカッと来てたいたのかもしれませんが(笑)。私自身、登園拒否をしていた時期がありまして。自分で、勝手に理由をつけて、確か、「植木屋さんの手伝い」をするんだとか言って、1年間登園拒否をしていました。子どもなりに何らかの理由があったようです(笑)。

自分で決めた線は状況によって変化することがあります。政治家もどういう政治家がいい政治家なのかという問題もあります。政策を立てて、その政策をどんな事情であれきちんとやることなのか、状況に応じて変化はしても、最後の最後に助けてもらえればいい政治なのか。その都度その都度、自分が決めた線を見つめていくということが肝要なのではないかと私は考えていま

す。

園部代表；ありがとうございました。では、原田先生からもお願いいたします。

原田先生；新人の先生と園長先生との違いは何でしょうか。それは、園長先生の話は説得力があり、きちんと筋が通っています。新人の先生は声が小さく、話も通りづらいというところにあるのではないのでしょうか。私自身も最初の講義は教卓につかまって、ふるえながらしました。今はそんな事はありませんけれど(笑)。保育の仕事は急いでも結果はすぐには出ない、ということです。あきらめずに切磋琢磨を続ければ、きっと結果は付いてきます。

もう一つ、「感情的にならない」ということは、保育の必須条件だと思えます。公園に散歩に来ていた母子連れをみていたら、公園のテーブルに子どもが水をこぼすと母親がカッとなっていました。そして、カッときた母親は子どもに手を挙げていたのです。なぜでしょう？自分が嫌な事をされたからカッときているのです。「カッとしたら負け」です。いつも感情的にならず、安定した状態で子どもに接することができたらいいと思います。

新人の先生方に、今はできなくても、あせらずに保育をしていただきたいと思えます。自分が子ども達をどう指導していきたいのかを見極めて、子ども達を十分に褒めて下さい。そうしていくうちに、主任の先生や園長先生のように、はっきりとした表現ができるようになるでしょう。

7. 園部代表より

それでは、本日も新人さんのお悩み相談でしたが、重みのあるいい経験談がたくさん聞けて、すごくいいなと思えました。他の園の事を聞く機会なんて、ほとんどないと思いますから、貴重な機会になったのではないのでしょうか。こんな時には、ああこういう風にすればいいんだな、というヒントがたくさんありましたね。各園に持って帰って頂いて、実践に役立てていただければと思います。新人保育士の研修のようですが、実は保育全体の質を上げていくためにも、こういった会は必要だと思えました。本当に本日もありがとうございました。

8. 次回

平成22年5月24日(月) 14:00～

なでしこ保育園 子育て支援センター「パーシモン」以上